

令和8年度 第2回 朝日丘地域会議 会議録

■日 時 令和8年6月11日(木) 午後7時～8時20分

■場 所 朝日丘交流館 2階 21会議室

■出席者 <委 員> 山口 美智雄 高橋 英明 深井 弘司
長尾 敬一郎 野田 英伸 都築 正孝
岡本 勝好 藤田 武士 水野 和之
日高 俊郎 中山 憲雄 川上 真史
横山 浩一

<事務局> 板倉 壮吾(地域交流課副主幹) 前田 浩貴(地域交流課担当長)
田中 和香(地域交流課主事)

- 次 第
- 1 開会・会長あいさつ
 - 2 地域課題解決事業について
 - (1) 地域課題解決事業(防災事業)の振り返り
 - (2) 令和8年度以降の取組について
 - 3 閉会

■議 事(要約)

2 地域課題解決事業について

- (1) 平成27年～令和5年度までに実施した防災事業を含め、令和6～7年度に提言に向けて協議してきた内容、今後の方針について説明した。
- (2) 令和7年度までの協議に基づき、令和8年度に実施を検討する内容について説明を実施。委員から以下の意見があった。

・提言では「食料を3日以上備蓄する」ことを目標としているが、備蓄の必要性を理解するためには、3日分とする根拠を明確にする必要があると考える。また、トイレや発電機など他にも災害時に備えるべきものはあると考えるが、食料を最優先としてよいか。の理由を明確するべき。

・実際に災害が起きたとき、市から具体的にはどのような支援があるのか。最悪の場合を想定した市のシナリオに基づき、発災時に市の支援はどのように計画されており、どこからは地域や個人が備えなければならないのかを明確にする。そのなかで、何が最優先に備えるべきなのかを明確にすることで、備蓄の意識につながると考える。

・地域、個人で実施する必要があること(優先的に実施することはなにか等)を理解する必要がある。

以上の意見を踏まえ、委員の防災に関する知識の底上げ、実施事業や目標に関してその根拠を明確にするため、次回は防災対策課による防災講座を実施することとした。

<会議の中で委員が聞きたいこと>

- ・過去の災害(三河地震や伊勢湾台風等)が起きたときの事例
- ・市民意識調査における、備蓄率や危険個所認識の等割合が減少している原因の分析はできているのか

- ・ 南海トラフ地震がおきた際の市のシナリオはあるのか（朝日丘ではなく市全体）
- ・ 本庁が浸水した場合に、災害対策本部が移転できるようになったのか
（以前、移転の訓練実施時に混乱してしまったと聞いた）

その他の聞きたいことについては、事務局に連絡をいただくこととした。

（終了）